

# 平成 27 年度 生活科・総合授業づくり講座報告

1 日 時 平成 27 年 11 月 26 日 (木) 14:30～

2 場 所 山形市総合学習センター 3 階 科学研修室

3 参加者 山形市内小学校教員 19 名

## 4 研修概要報告

### (1) 総合的な学習の時間の時間 実践発表

「総合的な学習の時間の単元づくりを考える～草木染めによる染め物を教材とした実践から～」

山形大学附属小学校 江波 大 教諭

山形大学附属小学校の江波教諭から、第 4 学年で実践した授業について発表していただいた。単元を立ち上げていくときの子どもの意識と教師の思いや願いにおける葛藤や子どもの見取りと瞬間瞬間での教師の判断などといったリアルな話を聞くことができた。

また、江波教諭自身が実践を通して難しいと感じているところも問いかけながら、先生方と一緒に授業づくりのポイントについて考えていきたいという提案があった。

詳しい実践発表の内容については、資料を参照してください。

### (2) 実践発表をもとにした話し合い

江波教諭の実践発表をもとに、5つのグループに分かれて授業づくりのポイントについて江波教諭からいただいた単元の流れを大判で印刷したものに付箋を貼りながら話し合いを行った。

その際、江波教諭も各班をまわって、質問に答えたり、一緒に考えたりしていただいた。また、子ども達のつくった染め物や表現物などもみせていただいた。



### (3) 各班からの発表

各班より、以下のことが授業づくりのポイントとして発表された。

- **探究への意欲**を持続させる支援
  - ・ **本物との出会い (ひと・もの・こと)**
  - ・ **体験活動**
  - ・ **教師の見取り**
- 子どもも教師も **見通し**をもって取り組める魅力的な単元
- **繰り返し**活動していくうちに、自分の高まりが実感できる。
- **繰り返し**ながら高まっていくための教師の手立て
- 昨年度学習の **ものたりなさ**をきっかけに前向きに取り組まれてすばらしい。
- **子どもの思い**をきっかけにした授業づくり
- 導入で **ものたりなさ**を感じたからこそ、**子どもの思いや願い**が生まれ、**意欲や関心が継続**した。

- **子どもの見取りと材の出合わせ方がすばらしい。**
- 単元の流れの確かさ。
  - ・ **共通体験**
  - ・ **前年度の子どもの学びの見取り**
- **カリキュラムの枠を越えた教科の知識や技能が習得**できている。

#### (4) 総評

先生方から発表された授業づくりのポイントの多くは、単元の立ち上げのところであった。子どもの思いや願い・教師の思いや願い・対象のもつ価値をしっかりと吟味したうえで、子どもに付けたい力を明確にして単元を構成、立ち上げていくことの重要性を感じているからこそなのだろう。しかし、江波教諭の実践を聞いていると、単元の立ち上げの時期では、「染め物をする必要はない」と言っていた子どもが、その後、体験を繰り返していく中で自分にとっての染め物の意味を確かにしていく事例が紹介されたり、はじめの単元の計画と実際の展開に大きな違いがあったりと、その時の子どもの思いや願いと教師の判断によって活動の展開も変化していくこと、もっと言えば変化させていくことこそが大切なポイントであると考えられる。子どもとともにつくっていく学習を教師も一緒に苦しみながら楽しんでいきたい。

また、探究のサイクルを繰り返していくことの大切さが先生方からも出されていた。探究のサイクルを繰り返していくことは、一つのサイクルを繰り返していくことではなく、つながりの中で発展していくことである。子ども自身の問題の質が高まっているのかが重要なポイントである。質が高まるとは、対象や取り組みがより具体的になるということだと考える。そうすることで、子どもが自分の責任で学習を展開していく割合も高まっていくと考える。

現在、各学校では、何年生ではこの対象で学習をするということが決まっていて総合的な学習の時間に取り組んでいることが多いと思われる。その中で、教師が「何ができる」を考えるのではなく、目の前の子どもの思いや願いが生まれるような体験活動、そして、そこからの活動を目の前の子どもから創造することが大切なのではないかと考える。そうしたマイナーチェンジをしていっていただきたい。

## 6 参加された先生方のアンケートから

- ・ 学習を繰り返していくうちに課題が変わっていくことや目の前の子どもを見ながら活動することが、大切だと感じました。生活科に限らず、子ども達を見ながら学習を進めていきたいと思えます。
- ・ 生活科・総合は、内容を子どもたちの思いや願いに合わせて決められる分、いかに「思い」「願い」を引き出すかが大事であると感じた。同じ内容をさせる場合、①いろいろな困難や課題が出てくるもの、②答えやおわりがなく、追究できるもの、③広がり期待できるもの、であれば「自分ごと」として探究していけるのだとわかった。
- ・ 自分の事として考える、自分の活動に責任を持つこと、繰り返し経験する事というのは、つながっているのだと感じました。
- ・ 「子どもの思いや願い」をいかに学習につなげ、価値のある材に出会わせるか…指導者の子ども理解、教材研究が非常に大切であることを学んだ。活動を繰り返すことで高まっていくことが、実践を通してわかった。子どもの学びの足跡や実践を見させていただいたことで、イメージがわいた。

(文責：山形市理科教育センター事務局長 馬場 賢)